

三井住友・DCターゲットイヤーファンド2045（4資産タイプ）

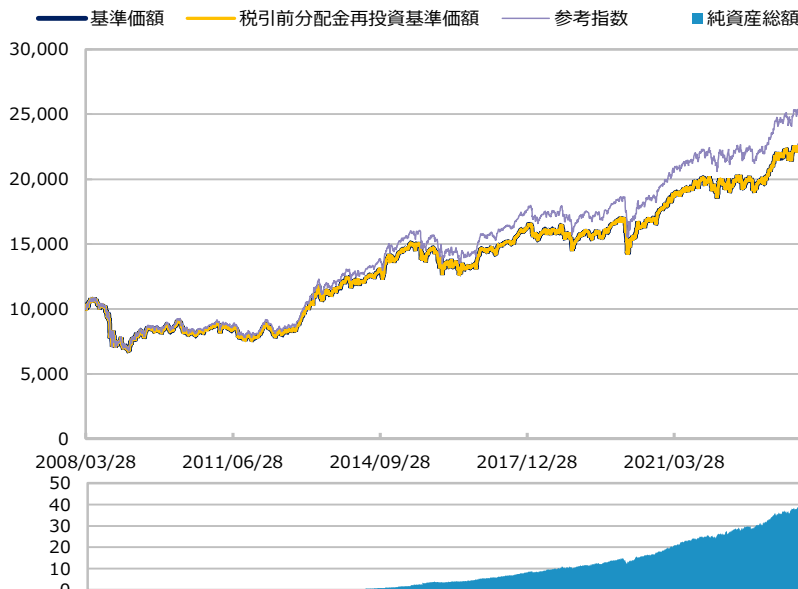
【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年01月31日

ファンド設定日：2008年03月31日

日経新聞掲載名：DC2045

基準価額・純資産総額の推移（円・億円）



- グラフは過去の実績を示したものであり将来の成果をお約束するものではありません。
 - 基準価額は信託報酬控除後です。信託報酬は後述の「ファンドの費用」をご覧ください。
 - 参考指数は、合成指数です。ファンド設定日前日を10,000とした指数を使用しています。
 - ファンドは当該合成指数の動きに連動する投資成果を目指します。
- 詳細は後述の「ベンチマークまたは参考指数に関する注意事項」をご覧ください。

基準価額・純資産総額

	当月末	前月比
基準価額（円）	23,386	+857
純資産総額（百万円）	4,024	+183

■ 基準価額は10,000口当たりの金額です。

騰落率（税引前分配金再投資）（%）

	基準日	ファンド	参考指数
1 か月	2023/12/29	3.8	3.8
3 か月	2023/10/31	9.0	9.1
6 か月	2023/07/31	6.6	6.9
1 年	2023/01/31	19.2	20.1
3 年	2021/01/29	30.5	33.3
設定来	2008/03/31	133.9	163.3

- ファンドの騰落率は税引前分配金を再投資した場合の数値です。
- 換金時には税金等の費用がかかる場合があります。
- 騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。

最近の分配実績（税引前）（円）

期	決算日	分配金
第11期	2019/04/15	0
第12期	2020/04/13	0
第13期	2021/04/13	0
第14期	2022/04/13	0
第15期	2023/04/13	0
設定来累計		0

※ 分配金は10,000口当たりの金額です。過去の実績を示したものであり、将来の分配をお約束するものではありません。

資産構成比率（%）

	基本配分	当月末	基本配分との差	前月比
株式計	52.0	52.5	+0.5	+0.5
国内株式マザー	30.0	30.3	+0.3	+0.2
外国株式マザー	22.0	22.1	+0.1	+0.3
債券計	46.0	45.2	-0.8	-0.4
国内債券マザー	26.0	25.5	-0.5	-0.2
外国債券マザー	20.0	19.7	-0.3	-0.1
現金等	2.0	2.3	+0.3	-0.1
合計	100.0	100.0	0.0	0.0

- ※ 現金等にはマネー・ファンドを含みます。
- ※ 各組入マザーファンドの正式名称は2枚目以降をご覧ください。

基準価額の変動要因（円）

	寄与額
国内株式	+529
外国株式	+128
国内債券	-42
外国債券	-55
為替	+308
分配金	0
その他	-9
合計	+857

※ 基準価額の月間変動額を主な要因に分解したもので概算値です。

※ この資料の各グラフ・表に記載されている数値は、表示桁未満がある場合は四捨五入して表示しています。
 ※ この資料に記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全てファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友・DCターゲットイヤーファンド2045（4資産タイプ）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年01月31日

※ このページは「国内株式マザー：国内株式インデックス・マザーファンド（B号）」の情報を記載しています。

資産構成比率（％）

	当月末	前月比
株式	98.8	-0.1
先物等	1.3	+0.2
現金等	-0.1	-0.1
合計	100.0	0.0

騰落率（税引前分配金再投資）（％）

	基準日	ファンド	ベンチマーク
1か月	2023/12/29	7.8	7.8
3か月	2023/10/31	13.4	13.4
6か月	2023/07/31	11.1	11.0
1年	2023/01/31	32.5	32.4
3年	2021/01/29	51.8	51.7
設定来	2008/03/31	189.2	188.4

※ ベンチマークは、TOPIX（東証株価指数、配当込み）です。

組入上位10業種（％）

	当月末	前月比
1 電気機器	17.2	-0.1
2 輸送用機器	8.5	+0.4
3 情報・通信業	7.5	-0.1
4 卸売業	7.2	+0.3
5 銀行業	7.1	+0.3
6 化学	5.8	-0.3
7 機械	5.3	+0.0
8 サービス業	4.7	-0.3
9 医薬品	4.5	-0.1
10 小売業	4.1	-0.1

※ 業種は東証業種分類です。

組入上位10銘柄（％）

銘柄		業種	比率
1	トヨタ自動車	輸送用機器	4.5
2	ソニーグループ	電気機器	2.8
3	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	2.3
4	キーエンス	電気機器	1.8
5	東京エレクトロン	電気機器	1.6
6	日立製作所	電気機器	1.5
7	日本電信電話	情報・通信業	1.5
8	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	1.5
9	三菱商事	卸売業	1.5
10	信越化学工業	化学	1.5

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入マザーファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友・DCターゲットイヤーファンド2045（4資産タイプ）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年01月31日

※ このページは「国内株式マザー：国内株式インデックス・マザーファンド（B号）」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

＜市場動向＞

国内の株式市場は、上昇しました。

上旬は、米ハイテク株高、米ドル高・円安進行、海外投資家の買いが支えとなり、上昇しました。中旬も、米株の堅調な動きが続いたことなどを支えに上昇基調が続きました。下旬は、日銀の金融政策決定会合で現状の金融緩和策が維持されたものの、将来の金融政策正常化が意識され、高値圏でもみ合う展開となりました。

業種別では、海運業、証券・商品先物取引業、輸送用機器などが市場をアウトパフォームした一方、繊維製品、サービス業、陸運業などがアンダーパフォームしました。

＜市場見通し＞

世界の景気を見ると、日本が足踏みしつつあり、中国が減速している一方、欧米は総じて底堅く推移しています。このように国・地域間でばらつきがあるものの、欧米で金融引き締め局面が終わりつつあることもあり、全体として持ち直す動きが続くと想定します。

企業業績の持続的な改善に加え、デフレ脱却やコーポレート・ガバナンス（企業統治）改革進展への期待、良好な株式需給などが日本株の上昇を支えると考えます。一方、中国景気の先行きに不透明感が残ること、国際政治情勢の緊迫化などが株式市場の重石になると想定します。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

三井住友・DCターゲットイヤーファンド2045（4資産タイプ）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年01月31日

※ このページは「外国株式マザー：外国株式インデックス・マザーファンド」の情報を記載しています。

資産構成比率（％）

	当月末	前月比
株式	97.3	-0.2
先物等	2.7	+0.2
現金等	0.0	-0.0
合計	100.0	0.0

騰落率（税引前分配金再投資）（％）

	基準日	ファンド	ベンチマーク
1か月	2023/12/29	6.1	6.1
3か月	2023/10/31	16.5	16.6
6か月	2023/07/31	11.8	11.9
1年	2023/01/31	35.6	35.9
3年	2021/01/29	81.0	82.0
設定来	2008/03/31	407.7	419.3

※ ベンチマークは、MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円換算ベース）です。

組入上位5カ国・地域（％）

	当月末	前月比
1 アメリカ	70.6	+0.5
2 イギリス	3.7	-0.1
3 カナダ	3.3	-0.1
4 スイス	3.1	-0.0
5 フランス	3.0	-0.1

組入上位5通貨（％）

	当月末	前月比
1 アメリカドル	73.3	+0.5
2 ユーロ	9.1	-0.2
3 イギリスポンド	4.0	-0.1
4 カナダドル	3.2	-0.1
5 スイスフラン	2.7	-0.0

組入上位5業種（％）

	当月末	前月比
1 ソフトウェア・サービス	10.4	+0.5
2 医薬品・バイオテクノロジー	7.9	+0.1
3 半導体・半導体製造装置	7.0	+0.5
4 金融サービス	6.6	-0.0
5 資本財	6.6	-0.2

※ 業種はGICS（世界産業分類基準）による分類です。

組入上位10銘柄（％）

（組入銘柄数 1,258）

	銘柄	国・地域	業種	比率
1	アップル	アメリカ	テクノロジー・ハードウェア・機器	5.0
2	マイクロソフト	アメリカ	ソフトウェア・サービス	4.9
3	エヌビディア	アメリカ	半導体・半導体製造装置	2.6
4	アマゾン・ドット・コム	アメリカ	一般消費財・サービス流通・小売り	2.5
5	アルファベット クラスA	アメリカ	メディア・娯楽	1.5
6	メタ・プラットフォームズ	アメリカ	メディア・娯楽	1.5
7	アルファベット クラスC	アメリカ	メディア・娯楽	1.3
8	テスラ	アメリカ	自動車・自動車部品	0.9
9	ブロードコム	アメリカ	半導体・半導体製造装置	0.9
10	イーライリリー	アメリカ	医薬品・バイオテクノロジー	0.9

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入マザーファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友・DCターゲットイヤーファンド2045（4資産タイプ）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年01月31日

※ このページは「外国株式マザー：外国株式インデックス・マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

＜市場動向＞

米国株式市場は上昇しました。月初に弱含む場面こそありましたが、FRB（米連邦準備制度理事会）によるQT（量的引締め）ペースの緩和観測や、エヌビディアなど生成AI関連企業への業績期待から反発しました。雇用や物価に関わる景気指標が景気のソフトランディング（軟着陸）を支持する内容となったことに加えて、やや懸念されていた消費者センチメント（心理）の改善が示唆されたこともあり、S&P500インデックスは史上最高値を更新しました。月末にかけては期待が先行していたアルファベットの調整や、FOMC（米連邦公開市場委員会）で3月の利下げに対して消極的な見方が示されたことから、若干上げ幅を縮めました。

欧州株式市場は上昇しました。ECB（欧州中央銀行）の利下げ期待の高まりに加えて、エネルギー価格の落ち着きと景況感の改善により、米国に追随する展開となりました。個別銘柄では中国懸念にも関わらず、好業績を発表したLVMH モエ ヘネシー・ルイヴィトンが急騰する局面もありました。

（為替）米ドル/円は、米ドル高・円安となりました。米景気の底堅さなどを背景にFRBによる早期の利下げ観測が後退したことや、能登半島地震を受けて日銀による早期のマイナス金利解除の思惑がやや後退したことから、米ドル高・円安となりました。

ユーロ/円は、ユーロ高・円安となりました。ECBによる早期の利下げ観測が後退したことや、日銀による早期のマイナス金利解除の思惑がやや後退したことから、ユーロ高・円安となりました。

＜市場見通し＞

米国株式市場では、金融政策の利下げへの転換に対する期待が支援材料となっています。企業業績は大型テクノロジー企業で概ね好調が持続しており、製造業でも底入れが期待されます。インフレの再加速が見られない限り、こうした業績の回復に伴って、株式市場はレンジが切り上がる動きを期待します。ただし、企業業績の回復は株価に織り込まれつつあり、大統領選に向けた政治的不透明感の高まりが警戒されることもあり、上昇基調は緩やかにとどまるとみています。欧州株式市場も、米国対比で深刻だった物価上昇への対処に目途が付きつつあり、中国の政策対応や域内景気の安定化が支援材料となることから上昇の維持は可能との見方です。

（為替）米ドル/円は、FRBによる早期の利下げ開始が意識されることや、日銀のマイナス金利解除などの政策修正が想定されることから、下落圧力がかかりやすい展開を予想します。ただし、その後の日銀の追加利上げは慎重に実施されると予想される為、緩やかな米ドル安・円高を予想します。

ユーロ/円は、ユーロ圏のインフレ鈍化などからECBによる利下げ開始が見込まれることや、日銀のマイナス金利解除などの政策修正が想定されることから、下落圧力がかかりやすい展開を予想します。ただし、その後の日

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

三井住友・DCターゲットイヤーファンド2045（4資産タイプ）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年01月31日

※ このページは「外国株式マザー：外国株式インデックス・マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

銀の追加利上げは慎重に実施されると予想されるため、緩やかなユーロ安・円高を予想します。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be
Active.

三井住友・DCターゲットイヤーファンド2045（4資産タイプ）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年01月31日

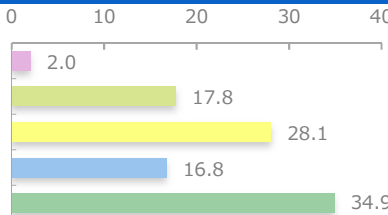
※ このページは「国内債券マザー：国内債券パッシブ・マザーファンド」の情報を記載しています。

資産構成比率（％）

	当月末	前月比
債券	99.5	-0.2
先物等	0.0	0.0
現金等	0.5	+0.2
合計	100.0	0.0

残存構成比率（％）

	当月末	前月比
1年未満	2.0	-0.5
1-3年	17.8	+0.4
3-7年	28.1	+0.1
7-10年	16.8	+0.2
10年以上	34.9	-0.3



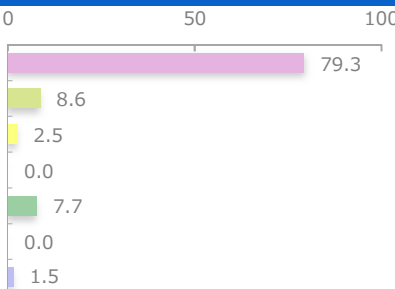
騰落率（税引前分配金再投資）（％）

	基準日	ファンド	ベンチマーク
1か月	2023/12/29	-0.7	-0.7
3か月	2023/10/31	1.8	1.8
6か月	2023/07/31	-1.3	-1.3
1年	2023/01/31	0.1	0.0
3年	2021/01/29	-5.2	-5.3
設定来	2008/03/31	17.4	17.2

※ ベンチマークは、NOMURA-BPI（総合）です。

種別構成比率（％）

	当月末	前月比
国債	79.3	+0.3
地方債	8.6	-0.6
政府機関債	2.5	+0.0
金融債	0.0	0.0
事業債	7.7	+0.1
円建外債	0.0	0.0
その他債券	1.5	+0.0



ポートフォリオ特性値

	当月末	前月比
クーポン（％）	0.9	+0.0
残存年数（年）	9.7	-0.1
デュレーション（年）	8.8	-0.1
直接利回り（％）	0.9	+0.0
最終利回り（％）	0.7	+0.1

※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。

※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

組入上位10銘柄

（組入銘柄数 432）

銘柄	クーポン（％）	残存年数（年）	比率（％）
1 150 5年国債	0.005	2.9	2.4
2 451 2年国債	0.005	1.5	1.1
3 147 5年国債	0.005	2.1	1.0
4 149 5年国債	0.005	2.6	1.0
5 153 5年国債	0.005	3.4	0.9
6 160 5年国債	0.200	4.4	0.9
7 145 5年国債	0.100	1.6	0.9
8 148 5年国債	0.005	2.4	0.9
9 154 5年国債	0.100	3.6	0.9
10 368 10年国債	0.200	8.6	0.9

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入マザーファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友・DCターゲットイヤーファンド2045（4資産タイプ）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年01月31日

※ このページは「国内債券マザー：国内債券パッシブ・マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

＜市場動向＞

国内の長期金利（10年国債利回り）は、上昇しました。

能登半島地震の発生により早期の金融政策修正観測が後退する中、日銀の物価見通し引き下げ報道もあり、中旬にかけて長期金利は緩やかに低下しました。しかし、中旬に実施された5年・20年国債入札が不調な結果となり投資家需要の乏しさが確認されると、金利は上昇に転じました。また、22日、23日に開催された日銀の金融政策決定会合では金融政策が据え置かれましたが、会合後の植田日銀総裁の会見が政策変更が近づいていることを意識させるタカ派（インフレ抑制を重視する立場）的な内容であったため、翌日以降に金利は上昇幅を拡大しました。

＜市場見通し＞

国内景気は足踏みしているものの、経済活動再開の下でインフレ鈍化や賃金増加が内需のサポートとなり、緩やかな回復基調に戻る見通しです。CPIコア（生鮮食品除く消費者物価指数）の前年比伸び率は、政策効果によって+2%台に低下しており、先行きも輸入物価を起点とするコストプッシュ圧力の弱まりにより緩やかに減速基調が続く見通しです。日銀は賃金、物価上昇の好循環への確度が高まったタイミングでの政策変更を示唆しており、春闘の大勢が判明する春先にかけて、マイナス金利解除を中心とした政策変更が実施される見込みです。国内金利は、日銀の金融政策修正への警戒が高まっていることから上昇圧力がかかりやすいものの、先行きの利下げを意識した欧米金利の動向にも影響される展開を想定します。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

三井住友・DCターゲットイヤーファンド2045（4資産タイプ）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年01月31日

※ このページは「外国債券マザー：外国債券パッシブ・マザーファンド」の情報を記載しています。

資産構成比率（％）

	当月末	前月比
債券	98.6	-0.8
先物等	0.0	0.0
現金等	1.4	+0.8
合計	100.0	0.0

騰落率（税引前分配金再投資）（％）

	基準日	ファンド	ベンチマーク
1か月	2023/12/29	1.8	1.8
3か月	2023/10/31	5.4	5.5
6か月	2023/07/31	6.6	6.7
1年	2023/01/31	14.8	14.9
3年	2021/01/29	15.2	15.3
設定来	2008/03/31	68.9	70.5

※ ベンチマークは、FTSE世界国債インデックス（除く日本、円換算ベース）です。

ポートフォリオ特性値

	当月末	前月比
クーポン（％）	2.4	+0.0
残存年数（年）	8.2	-0.2
デュレーション（年）	6.4	-0.2
直接利回り（％）	2.5	+0.0
最終利回り（％）	3.6	+0.2

※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。

※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

組入上位5通貨（％）

	当月末	前月比
1 アメリカドル	46.8	+0.3
2 ユーロ	31.9	-1.3
3 中国元(オフショア)	7.9	+0.4
4 イギリスポンド	5.2	-0.1
5 カナダドル	2.0	+0.0

組入上位5カ国・地域（％）

	当月末	前月比
1 アメリカ	46.8	+0.3
2 フランス	8.1	-0.3
3 中国	7.9	+0.4
4 イタリア	7.2	-0.3
5 ドイツ	6.3	-0.3

組入上位10銘柄

（組入銘柄数 716）

銘柄	通貨	クーポン（％）	残存年数（年）	比率（％）
1 アメリカ国債	アメリカドル	1.625	2.3	0.9
2 アメリカ国債	アメリカドル	2.250	2.2	0.7
3 中国国債	中国元(オフショア)	2.690	2.5	0.6
4 中国国債	中国元(オフショア)	3.720	27.2	0.5
5 アメリカ国債	アメリカドル	0.625	3.9	0.5
6 中国国債	中国元(オフショア)	3.020	7.3	0.5
7 アメリカ国債	アメリカドル	3.500	9.0	0.5
8 中国国債	中国元(オフショア)	2.400	4.5	0.5
9 アメリカ国債	アメリカドル	4.125	8.8	0.5
10 中国国債	中国元(オフショア)	2.180	1.6	0.5

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入マザーファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友・DCターゲットイヤーファンド2045（4資産タイプ）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年01月31日

※ このページは「外国債券マザー：外国債券パッシブ・マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

＜市場動向＞

米国では、長期金利（10年国債利回り）は上昇しました。FRB（米連邦準備制度理事会）高官から早期の利下げに慎重な発言が相次いだことや堅調な経済指標などを背景に金利は上昇しました。その後、月末にかけては、インフレや労働需給の緩和を示す経済指標などから金利は低下に転じ、月間の上昇幅を縮めました。なお、月末に開催されたFOMC（米連邦公開市場委員会）では4会合連続で政策金利が据え置かれました。

ユーロ圏では、長期金利（ドイツ10年国債利回り）は上昇しました。ECB（欧州中央銀行）高官から早期利下げ観測をけん制する発言が相次ぐ中、利下げ織り込みが後退し、金利は上昇しました。その後、下旬に開催されたECB理事会では、3会合連続で政策金利が据え置かれたものの、ラガルド総裁の会見内容が市場でハト派（景気を重視する立場）的と受け止められたことから、月末にかけて金利はやや低下しました。

（為替）米ドル/円は、米ドル高・円安となりました。米景気の底堅さなどを背景にFRBによる早期の利下げ観測が後退したことや、能登半島地震を受けて日銀による早期のマイナス金利解除の思惑がやや後退したことから、米ドル高・円安となりました。

ユーロ/円は、ユーロ高・円安となりました。ECBによる早期の利下げ観測が後退したことや、日銀による早期のマイナス金利解除の思惑がやや後退したことから、ユーロ高・円安となりました。

＜市場見通し＞

米国では、景気が底堅く推移しているものの、インフレの鈍化が進展する中、FRBのタカ派（インフレ抑制を重視する立場）姿勢は後退し、利下げへの転換を探り始めています。今後、累積した利上げ効果によるインフレの正常化と景気減速が徐々に浸透することで、FRBによる利下げの開始が想定されることから、金利は緩やかに低下する展開を予想します。

ユーロ圏では、底堅い労働市場や賃金上昇が当面続くものの、インフレの鈍化が進む中、ECBは利上げを停止し、様子見姿勢に移行しています。今後は、累積した利上げによる影響からインフレの正常化と景気減速が進むことで、ECBによる利下げ開始が想定されることから、金利は緩やかに低下する展開を予想します。

（為替）米ドル/円は、FRBによる早期の利下げ開始が意識されることや、日銀のマイナス金利解除などの政策修正が想定されることから、下落圧力がかりやすい展開を予想します。ただし、その後の日銀の追加利上げは慎重に実施されると予想される為、緩やかな米ドル安・円高を予想します。

ユーロ/円は、ユーロ圏のインフレ鈍化などからECBによる利下げ開始が見込まれることや、日銀のマイナス金利解除などの政策修正が想定されることから、下落圧力がかりやすい展開を予想します。ただし、その後の日

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント Be Active.

三井住友・DCターゲットイヤーファンド2045（4資産タイプ）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年01月31日

※ このページは「外国債券マザー：外国債券パッシブ・マザーファンド」の情報を記載しています。

ファンドマネージャーコメント

銀の追加利上げは慎重に実施されると予想されるため、緩やかなユーロ安・円高を予想します。

※ 作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等をお約束するものではありません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be
Active.

三井住友・DCターゲットイヤーファンド2045（4資産タイプ）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年01月31日

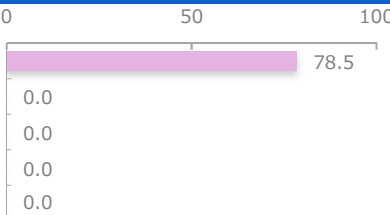
※ このページは「マネーインカム・マザーファンド」の情報を記載しています。

資産構成比率 (%)

	当月末	前月比
債券	78.5	+5.9
先物等	0.0	0.0
現金等	21.5	-5.9
合計	100.0	0.0

残存構成比率 (%)

	当月末	前月比
1年未満	78.5	+5.9
1-3年	0.0	0.0
3-7年	0.0	0.0
7-10年	0.0	0.0
10年以上	0.0	0.0



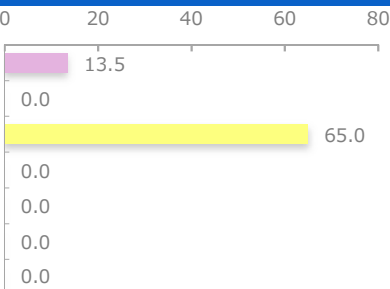
騰落率（税引前分配金再投資） (%)

	基準日	ファンド	ベンチマーク
1か月	2023/12/29	0.0	-0.0
3か月	2023/10/31	0.0	-0.0
6か月	2023/07/31	0.0	-0.0
1年	2023/01/31	-0.0	-0.0
3年	2021/01/29	-0.1	-0.1
設定来	2008/03/31	0.8	0.6

※ ベンチマークは、無担保コール翌日物を指します。

種別構成比率 (%)

	当月末	前月比
国債	13.5	+0.2
地方債	0.0	0.0
政府機関債	65.0	+5.7
金融債	0.0	0.0
事業債	0.0	0.0
円建外債	0.0	0.0
その他債券	0.0	0.0



ポートフォリオ特性値

	当月末	前月比
クーポン (%)	0.5	+0.0
残存年数 (年)	0.3	+0.0
デュレーション (年)	0.3	+0.0
直接利回り (%)	0.5	+0.0
最終利回り (%)	-0.1	-0.0

※ 各組入銘柄の数値を加重平均した値です。

※ 上記は将来の運用成果をお約束するものではありません。

組入上位10銘柄

銘柄	（組入銘柄数 10）		
	クーポン (%)	残存年数 (年)	比率 (%)
1 29 政保日本政策	0.660	0.1	15.0
2 220 政保道路機構	0.644	0.4	10.0
3 23 政保政策投資C	0.645	0.1	10.0
4 215 政保道路機構	0.669	0.2	10.0
5 337 10年国債	0.300	0.9	7.5
6 335 10年国債	0.500	0.6	6.0
7 60政保地方公共団	0.660	0.3	5.0
8 222 政保道路機構	0.601	0.5	5.0
9 225 政保道路機構	0.556	0.6	5.0
10 218 政保道路機構	0.660	0.3	5.0

※ このページに記載されている構成比を示す比率は、注記がある場合を除き全て組入マザーファンドの純資産総額を100%として計算した値です。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友・DCターゲットイヤーファンド2045（4資産タイプ）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年01月31日

ファンドの特色

- 日本を含む世界各国の株式、公社債および短期金融資産に分散投資を行います。
 - 実際の運用は、各資産に投資する5つのマザーファンドへの投資を通じて行います（ファミリーファンド方式）。
 - ターゲットイヤー（西暦2045年）到達後は、主として国内債券バッシュ・マザーファンドおよびマネーインカム・マザーファンドで運用を行います。
- 基本資産配分は、ターゲットイヤーまでの残存期間が長いほど値上がり益の獲得を重視し、ターゲットイヤーに近づくに従い配当等収益を重視した比率とします。
基本資産配分は、原則として年1回決算時に変更します。
- 実質外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジを行いません。

※ 資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

投資リスク

基準価額の変動要因

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の**投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込む**ことがあります。
- 運用の結果として信託財産に生じた**利益および損失は、すべて投資者に帰属**します。
- 投資信託は**預貯金と異なります**。また、一定の投資成果を保証するものではありません。
- 当ファンドの主要なリスクは以下の通りです。

■ 株式市場リスク

【株価の下落は、基準価額の下落要因です】

内外の経済動向や株式市場での需給動向等の影響により株式相場が下落した場合、ファンドの基準価額が下落する要因となります。また、個々の株式の価格はその発行企業の事業活動や財務状況等によって変動し、株価が下落した場合はファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 債券市場リスク

【債券の価格の下落は、基準価額の下落要因です】

一般に債券は内外の経済情勢等の影響による金利の変動を受けて価格が変動します。通常、金利が上昇すると債券価格は下落します。また、格付けが引き下げられる場合も債券価格が下落するおそれがあります。債券価格の下落はファンドの基準価額が下落する要因となります。なお、価格の変動幅は、債券の種類、格付け、残存期間、利払いのしくみの違い等により、債券ごとに異なります。

■ 信用リスク

【債務不履行の発生等は、基準価額の下落要因です】

ファンドが投資している有価証券や金融商品において債務不履行が発生あるいは懸念される場合、またはその発行体が経営不安や倒産等に陥った場合には、当該有価証券や金融商品の価格が下がったり、投資資金を回収できなくなったりすることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

■ 為替変動リスク

【円高は基準価額の下落要因です】

外貨建資産への投資は為替変動の影響を受けます。ファンドが保有する外貨建資産の価格が現地通貨ベースで上昇する場合であっても、当該現地通貨が対円で下落する（円高となる）場合、円ベースでの評価額が下落し、基準価額が下落することがあります。

■ カントリーリスク

【投資国の政治・経済等の不安定化は、基準価額の下落要因です】

海外に投資を行う場合には、投資先の国の政治・経済・社会状況の不安定化、取引規制や税制の変更等によって投資した資金の回収が困難になることや、その影響により投資する有価証券等の価格が大きく変動することがあり、基準価額が下落する要因となります。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

三井住友・DCターゲットイヤーファンド2045（4資産タイプ）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年01月31日

投資リスク

■ 流動性リスク

【市場規模の縮小・取引量の低下により、不利な条件での取引を余儀なくされることは、基準価額の下落要因です】

有価証券等を大量に売買しなければならない場合、あるいは市場を取り巻く外部環境に急激な変化があり、市場規模の縮小や市場の混乱が生じた場合等に、十分な数量の売買ができなかったり、通常よりも不利な価格での取引を余儀なくされることがあります。これらはファンドの基準価額が下落する要因となります。

その他の留意点

〔分配金に関する留意事項〕

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金申込みの受け付けが中止となる可能性、既に受け付けた換金申込みが取り消しとなる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性等があります。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.

三井住友・DCターゲットイヤーファンド2045（4資産タイプ）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年01月31日

お申込みメモ

購入単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

購入価額

購入申込受付日の翌営業日の基準価額

購入代金

販売会社の定める期日までにお支払いください。

換金単位

お申込みの販売会社にお問い合わせください。

換金価額

換金申込受付日の翌営業日の基準価額

換金代金

原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目からお支払いします。

信託期間

無期限（2008年3月31日設定）

決算日

毎年4月13日（休業日の場合は翌営業日）

収益分配

決算日に、分配方針に基づき分配金額を決定します。委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。

分配金受取りコース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、決算日から起算して5営業日目までにお支払いいたします。

分配金自動再投資コース：原則として、分配金は税金を差し引いた後、無手数料で再投資いたします。

※販売会社によってはいずれか一方のみの取扱いとなる場合があります。

課税関係

- 課税上は株式投資信託として取り扱われます。
- 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に限りNISA（少額投資非課税制度）の適用対象となります。
- <2040> <2045> は、NISAの「つみたて投資枠（特定累積投資勘定）」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
- 配当控除および益金不算入制度の適用はありません。



三井住友・DCターゲットイヤーファンド2045（4資産タイプ）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年01月31日

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

- 購入時手数料
ありません。
- 信託財産留保額
ありません。

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

- 運用管理費用（信託報酬）
ファンドの純資産総額に以下の率を乗じた額です。
 ターゲットイヤーの決算日まで : 年0.462% (税抜き0.42%)
 ターゲットイヤーの決算翌日以降 : 年0.231% (税抜き0.21%)
- その他の費用・手数料
以下のその他の費用・手数料について信託財産からご負担いただきます。
 - 監査法人等に支払われるファンドの監査費用
 - 有価証券の売買時に発生する売買委託手数料
 - 資産を外国で保管する場合の費用 等
 ※上記の費用等については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※ 上記の手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

税金

分配時

所得税及び地方税 配当所得として課税 普通分配金に対して20.315%

換金（解約）及び償還時

所得税及び地方税 譲渡所得として課税 換金（解約）時及び償還時の差益（譲渡益）に対して20.315%

- ※ 個人投資者の源泉徴収時の税率であり、課税方法等により異なる場合があります。法人の場合は上記とは異なります。
- ※ 外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。
- ※ 受益者が確定拠出年金法に規定する資産管理機関および国民年金基金連合会等の場合は、所得税および地方税がかかりません。なお、確定拠出年金制度の加入者については、確定拠出年金の積立金の運用にかかる税制が適用されます。
- ※ 税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。
- ※ 少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」をご利用の場合
少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」は、少額上場株式等に関する非課税制度であり、一定の額を上限として、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託等から生じる配当所得および譲渡所得が無期限で非課税となります。
ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設し、税法上の要件を満たした公募株式投資信託等を購入するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

三井住友・DCターゲットイヤーファンド2045（4資産タイプ）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年01月31日

委託会社・その他の関係法人等

委託会社	ファンドの運用の指図等を行います。 三井住友DSアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号 加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、 一般社団法人第二種金融商品取引業協会 ホームページ： https://www.smd-am.co.jp コールセンター： 0120-88-2976 [受付時間] 午前9時～午後5時（土、日、祝・休日を除く）
受託会社	ファンドの財産の保管および管理等を行います。 三井住友信託銀行株式会社
販売会社	ファンドの募集の取扱い及び解約お申込の受付等を行います。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友・DCターゲットイヤーファンド2045（4資産タイプ）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年01月31日

販売会社

販売会社名	登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 金融商品取引業協会	日本一般社団法人 投資顧問業協会	金融先物取引業協会	一般社団法人 投資信託協会	備考
auカブコム証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第61号	○	○	○	○		
SMB C日興証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第2251号	○	○	○	○		※1
株式会社SBI証券	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第44号	○	○		○		
Jトラストグローバル証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第35号	○					
松井証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第164号	○			○		
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第165号	○	○	○	○		
楽天証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第195号	○	○	○	○		
株式会社イオン銀行（仲介）	登録金融機関 関東財務局長（登金）第633号	○					※2
株式会社SBI新生銀行（SBI証券仲介）	登録金融機関 関東財務局長（登金）第10号	○			○		※3 ※4
株式会社SBI新生銀行（マネックス証券仲介）	登録金融機関 関東財務局長（登金）第10号	○			○		※3 ※2

備考欄について

※1：「ダイレクトコース」でのお取扱いとなります。※2：委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社※3：ネット専用※4：委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券

ベンチマークまたは参考指数に関する注意事項

- ベンチマークは、TOPIX（東証株価指数、配当込み）、NOMURA-BPI（総合）、MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円換算ベース）、FTSE世界国債インデックス（除く日本、円換算ベース）、無担保コール翌日物の日々の収益率を当ファンドの基本資産配分で加重平均し、当社が独自に指数化しています。
TOPIX（東証株価指数）は株式会社JPX総研、NOMURA-BPIは野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社、MSCIコクサイ・インデックスはMSCI Inc.、FTSE世界国債インデックスはFTSE Fixed Income LLCが、それぞれ公表している指数です。
各インデックスに関する著作権、知的所有権、その他一切の権利は、指数を公表および許諾する各社に帰属します。また、当該各社は当ファンドの取引および運用成果等に関して一切責任を負いません。

最終ページの「当資料のご利用にあたっての注意事項」を必ずご覧ください。

■ 設定・運用



三井住友・DCターゲットイヤーファンド2045（4資産タイプ）

【投信協会商品分類】 追加型投信／内外／資産複合

作成基準日：2024年01月31日

当資料のご利用にあたっての注意事項

- 当資料は、三井住友DSアセットマネジメントが作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。また、将来に關し述べられた運用方針・市場見通しも変更されることがあります。当資料は三井住友DSアセットマネジメントが信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 投資信託は、値動きのある証券（外国証券には為替変動リスクもあります。）に投資しますので、リスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動します。したがって元本や利回りが保証されているものではありません。
- 投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。
- 当ファンドの取得のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書（交付目論見書）および契約締結前交付書面等の内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等は販売会社にご請求ください。また、当資料に投資信託説明書（交付目論見書）と異なる内容が存在した場合は、最新の投資信託説明書（交付目論見書）が優先します。

■ 設定・運用



三井住友DSアセットマネジメント

Be Active.